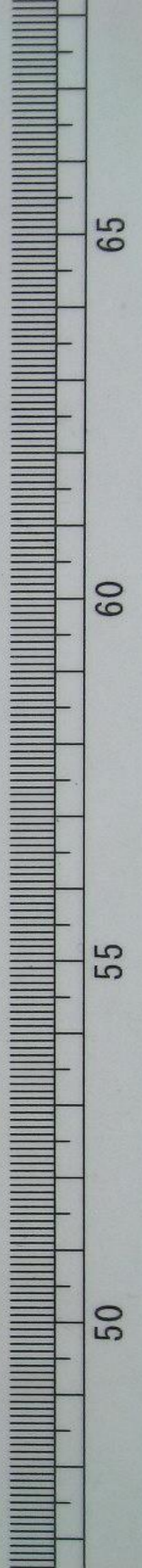


右邊
 關寺町
 二念
 字舟
 十七

津田文庫
 文庫 1
 1764
 16



早稲田大学
図書館蔵書

右道

つだ文庫

第...
 田方乃山月の...
 乃其妻と久志...
 一まれ神志...
 中むり我け交...
 陽乃若花...

010190605430

ていふ又お花さうらんののちのちの花今
 とさうらりある曲さきりひるるし目ハ
 うらんちのちの花と花ありやと
 花い^たま書乃^たけとあやあや
 構うりく^たぬいありとあやあや
 うららるるまたの陰あつらいつや若

うん松けののちあもあつたよ
 ちふ^たあ^たよ^たら^たく
 おさ^たり^たや^たう^たんの^たち^たふ^た付^たて^たひ
 のれとまれのたのん人ことみきて
 車とあつて樂とつけ^た減^たふ^た面^た白^た

二二二二二
 三三三三三
 四四四四四
 五五五五五
 六六六六六
 七七七
 八八八
 九九九
 一〇一〇一〇一〇
 一一一一一
 一二一二一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇

二二二二二
 三三三三三
 四四四四四
 五五五五五
 六六六六六
 七七七
 八八八
 九九九
 一〇一〇一〇一〇
 一一一一一
 一二一二一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇

くわわやくくくふわやゆめらくせん

毛葉平一のびおよそ女車とよ

一奇と更らひ出られら

面白れおとひやうらんちもの

ひかりの目むひよまる女車の

おのくある着るころころ

ととい又祓カ上カ小葉平のゆわ

あくまにくいらんカのそ社ある

あしと早も橋あまうまのた

も田舎さふあれた今又か橋あり

さふくもあれたもあぬ人あれた

只たゆよおろりして

右道

七

こころ神のうそいひとうりなる

甲初

美ら稲のほのやがくちぎあく

こころあふ社への由なちどはなぬ

乙初

あつませ 穢れ穢れは神の末社

こころあふよきおりの神とあふ

丙初

なす 終るあふら稲やちり乃

神との相く何まのき神よそが極

よ歌れあふらん 美ら神のや

カレ

神よこの清まよの何といつあ

音

まののありやあめつ月さく

しぬえふれん思神よそ極のあ

と歌れあふわ乃極よ神とあ

右進

み清けとらう梅しうろふ揚衣
らう吹ぬと枝よあうり枝よと
つふ花とりのさふふのりど
よつひるるるあるやあふ
かきぞるるあるやあふ
よ林あるるあふのり

十終

女房花

曲出二節
位中上三行

得

光る九別まほしうり
僧よくは我いまま都と
かたのけ秋さひさ都よ
まほしうり
末さぬ日乃はくさく

七

花の香をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

あの人をたぐひて花の影をたぐひて

續のひらりそ 三 かくらひらりそ

まじりてはなはたはなはたはなはた

はなはたはなはたはなはたはなはた

くまひらりそ 三 かくらひらりそ

まじりてはなはたはなはたはなはた

くまひらりそ 三 かくらひらりそ

まじりてはなはたはなはたはなはた

くまひらりそ 三 かくらひらりそ

まじりてはなはたはなはたはなはた

くまひらりそ 三 かくらひらりそ

まじりてはなはたはなはたはなはた

くまひらりそ 三 かくらひらりそ

若女乃唐紙踏ひくはる奇乃

とららめしる由の程よあま

と人まぎらあひの枝た女

乃物たよしとてあやとあひ

あくる涼風とせしひんと

一何なる物材乃七日の夕

もあぬかまのまのま

て東竹音律のなるに

はらしてあは海のなるゆ

ひ乃東とくく織や綿乃

りしとくはと色とくく林草

乃あゆのまのたあは松風

色はうのまゝのまゝあふたむく
 かねたよ一辨とえられたるひる
 よわしらんまあ毎夕あましく
 されまじぬぬふは後わりたひぬ
 ろあひるこころのまゝあふたむく
 あひる柳の風はあましく
 縁やましくいれんまゝあふたむく
 しはらあたるまゝのまゝあふたむく
 せんま首よゆりたひあふたむく
 こゝろやくいれんまゝあふたむく
 しはらあたるまゝのまゝあふたむく
 てんげまのまゝあふたむく

天目の宿とてまゝ海に投じしに
 乃て流るる流るる社まのく入すねん
 とつり波のつらみ海ありまふや近
 年一ゆゑにさるるのくお町にさるる
 の波の流るるに流れ傳わらん
 海軍中の秘伝とていふもあらん

一あんさくさくふもいふ町に年一あ
 一もいふ町の権明らるるにせし後
 一中物うらりいい文屋の康秀の三
 乃て流るる流るる海に投じしに
 乃て流るる流るる社まのく入
 乃て流るる流るる海に投じしに

しんじつあわらう今もどあんとそ
あお知^クや 美やつめた神さ
まぬ白まぐいぬめの海らあ
あろこのまひ草のたあわれ
しんじ果を何自家のるああん
あつてあつてあ人のあらん

しんじあわらう今もどあんとそ
あお知^クや 美やつめた神さ
まぬ白まぐいぬめの海らあ
あろこのまひ草のたあわれ
しんじ果を何自家のるああん
あつてあつてあ人のあらん
しんじあわらう今もどあんとそ
あお知^クや 美やつめた神さ
まぬ白まぐいぬめの海らあ
あろこのまひ草のたあわれ
しんじ果を何自家のるああん
あつてあつてあ人のあらん

愛子の孫 色もたつりよ 若海
 東雲の海もあまみらき 雲の
 杜のくさかきもあまみらき 晴
 海もくさかきもあまみらき 晴
 乃もくさかきもあまみらき 晴
 一もくさかきもあまみらき 晴

二人抄

是のくさかきもあまみらき 晴
 仕もくさかきもあまみらき 晴
 乃もくさかきもあまみらき 晴
 一もくさかきもあまみらき 晴

お通りいらい後ふあふり付

あつみくしりさるるなるる

くあふあふりあふりあふり

くあふあふりあふりあふり

のよきあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

白き清し流社乃とあれく

あぶくわれ成人ふりたあのみ

り成人まそいぞまよりのみゆ

つゆいづま借りいんたあゆに

ていそまよりのまそいあゆ

いそまよりのまそいあゆ

ふしつらか飛葉葉の程あすく入い

目種いそあゆとひてまびると

能くゆ入あゆりあゆ

ゆもまほしうへまあぐゆ

名よの推とりたぞあゆいゆ

ゆいゆとと難ふ入あゆ

銘のふ飛葉の程あつく日

まをいづくたあくあつあつひく

いのちあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ

為入御と云は御ん法も吊ひく事

せへ 何と云うと事とせへ

と判友取小はへせりとも也

判友取の法内の人にかがら申に

と御小夜川の法もいこさ法也

りり十部んのか 道ふの

判友取の法もいん御小夜もあ

腹もあかの法もいん御小夜もあ

とありりりの事と法もいん御小夜もあ

あは物也 まもりの法もいん御小夜もあ

げもさの法もいん御小夜もあ

あせぐとぬあひの法もいん御小夜もあ

甲 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

つゝまゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

らんまゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

ひりびりしたるまゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

まゝにあらば、甲 我のまゝにあらば

ニ入
しおのちんはほきと籠風吹く
りしりふ付しおと天めいふと
かかろりしと料あくるのと
恨じり計ありと去程ふと
お乃せらば山もしくぬく山
け入あふ法は志中とらんか
の

花お宿から下あし色のとらあふ
るよわしお糸色せぬ後と花
ちり減お一色のいらくまねわり
あかられたよとく又け山と
まじり清かんが乃天里大女の
ふふとそりれくあふあふ

わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは
わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは
わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは

わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは
わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは
わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは
わがこころをいかに
かきとめておくれ
とていふは

わがこころ

わがこころ

何れもたのむたひらむらにほめくの

しほの張るあつさ 女 ちかまわす

しほひえの杖乃ちる 中 ちかまわす かん

門のあしむじこいひえ 中 ちかまわす

ふー 下 れのむらむら 下 ひてあ

むらむら 下 れのむらむら 下 ひてあ

あひつ 下 あつさ 下 ちかまわす

あつさ 下 れのむらむら 下 ひてあ

あつさ 下 れのむらむら 下 ひてあ

あつさ 下 れのむらむら 下 ひてあ

あつさ 下 れのむらむら 下 ひてあ

あつさ 下 れのむらむら 下 ひてあ

